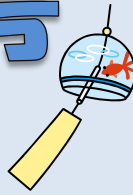


# アグリ筑西

## 2021 7月号



蒸し暑い日が多いので熱中症には  
十分注意しましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター)  
筑西地域農業改良推進協議会 発行  
Tel : 0296(24)9206  
Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス! ↑

## こだまスイカで管内初の外国人技能実習生

桜川市の藤田益弘経営士(施設園芸経営)は、こだまスイカで管内初の外国人技能実習生を導入しています。藤田経営士は、当初、施設栽培に外国人技能実習生を導入するのは難しいのではないかと考えていました。しかし、実習生がつる整枝、交配、収穫作業や箱詰め作業を手際よくこなしてくれているので、凄く助かっているそうです。

また、外国人技能実習生の雇用を機に、軟白ねぎやかぼちゃなどの新たな品目を導入し、栽培体系の改善にも取り組んでいます。



(写真) こだまスイカの箱詰め作業の様子

## ヒメトビウンカの本田防除を実施しましょう

筑西地域では、依然としてイネ縞葉枯病の発生が見られています。抵抗性品種の作付け拡大が最も有効な対策手段ですが、近年育苗箱施用剤を使用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用剤を使用しなかった水田等では、この時期にヒメトビウンカを対象とした本田防除を実施しましょう(表1)。

また、茨城県病害虫防除所が有効積算気温から5月25日時点に予測したヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛日は平年値より早く、予測防除適期も早まる見込みです(表2)。

表1 水稲のヒメトビウンカ防除に使用できる主な本田防除薬剤(令和3年6月9日現在)

薬剤名	本剤の使用回数	有効成分の種類	有効成分の総使用回数	IRACコード
スミチオン乳剤	2回以内	MEP	3回以内(但し、種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	1B
トレボン乳剤	3回以内	イトゲン®ロックス	3回以内	3A
MR.ジョーカーEW	2回以内	ララカエシ	2回以内	3A

注) IRACコードは、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

表2 ヒメトビウンカ第一世代成虫の予測防除適期

	アメダス地点	下館	下妻
予測産卵最盛日	本年 平年値	6月11日 6月16日	6月10日 6月14日
予測防除適期	本年	6/11~18	6/10~17

注) 有効積算温度から予測した産卵最盛日(5月25日現在)。

### 【農薬使用に関する注意】

参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容についての細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

農薬の新しい安全性評価導入等にもとない、直ちに使用方法を変更するよう注意喚起される場合があります。その場合は、ラベルの使用法ではなく、変更後の使用方法に従って使用してください。注意喚起の有無は、農薬の購入先や茨城県病害虫防除所のホームページ等で確認してください。

## 精米直売をしている方へ ~精米時期の表示が緩和されています~

精米商品は、これまで「精米年月日」を表示することとされていましたが、年月日に加えて、「10日の幅を持たせた年月旬(上旬/中旬/下旬)」という表示もできるようになっています(令和2年3月27日より)。これにより、食品ロスの削減や物流の効率化が図られることが期待されています。なお、令和4年3月31日までは従来の「精米年月日」と記載された米袋も使用可能です。

# 農業学園開講式及び第1回講座「経営計画講座」を開催しました！

6月10日（木）に農業学園開講式及び第1回講座「経営計画講座」を開催しました。講座では、ワークシートを用いて、今年度の規模や目標収量などの経営計画作成を行った後、先進事例発表として野口青年農業士\*より、自身の経営概要や取り組みについてお話しいただきました。その後、交流会を開催し、学園生同士や講師との交流を行いました。



(写真：講座の様子)

## ～学園生からの声～

- ・先進事例のお話は、今後の営農で活かせる内容でした。
- ・自分も新品目の導入を検討していきたい。

## ～\*野口青年農業士～

- ・2006年にUターン就農。
- ・元は普通作経営であった実家に、こだまスイカ、トマトを導入。現在は、産地をけん引する生産者として活躍。

次回講座	『病害虫・農薬安全使用講座』
日程	令和3年7月30日（金）
ところ	農業大学校園芸部（坂東市）
問い合わせ先	県西農林事務所経営・普及部門
	TEL：0296-24-9214

## 斑点米発生防止のための カメムシ防除をしましょう

### ①除草

水田にカメムシを引き寄せないために、イネが出穂する2週間前までに、水田内や畦畔等の除草を行います。イネが出穂してからの除草は、水田内にカメムシを追い込む形になるので避けます。



(写真) クモヘリカメムシ成虫  
写真出典：茨城県病害虫防除所

### ②農薬防除

成虫を対象とした農薬による防除適期は、イネの穂揃期になります。この時期に成虫を多く確認した場合は、防除を実施します。

幼虫を対象とした農薬による防除適期は、出穂後10～15日頃（乳熟期）になります。特に、乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生が増えることから、この時期に防除することが重要です。

すでに防除を実施した水田でも、乳熟期以降に幼虫が孵化したり新成虫が飛来する場合もあるため、発生を確認した場合には追加防除も実施しましょう。

## トマト黄化葉巻病に注意！トマト・ミニトマト病害虫防除暦を作成しました

トマト黄化葉巻病とは、コナジラミ類が媒介するウイルス病です。管内では、今年もコナジラミ類が多数発生しています。また、アザミウマ類の発生も多くなっていますので、ご注意ください。

加えて、令和3年度トマト・ミニトマト病害虫防除暦を作成しました。

希望の方は県西農林事務所経営・普及部門（0296-24-9218）またはJA北つくば東部営農経済センター（0296-21-8055）へご連絡ください。

## 普及員のひとこと 祝園真一

主に筑西市の梨を担当させていただきます。梨担当は10年ぶりですが、この10年で県育成品種の「恵水」やジョイント栽培など、新たな品種・技術が普及しています。この取り組みが県内で最も進んでいるのが筑西地域です。みなさまのお役に立てるよう頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。